



附属坂出小学校、附属幼稚園に直接関わるようになって4年が終わろうとしています。この間、多くの子供たちと出会い、PTAの方々にて育てられ、先生方と教育の楽しさを分かち合ってきました。この4年間で特に感じたのは、子供とは、分かり合えるという実感です。そして、そのためには、私たち大人が子供に合わせなければならないということです。もちろんそこには、様々な工夫が必要です。失敗を振り返り次につなげる努力も必要です。この結果分かり合えた瞬間に出会えるのは、現場で直接汗を流し実践した人です。新しい試みを考え実行するのはとても不安なものです。しかし、目の前に附属坂出学園の子供たちがいます。失敗を恐れず、関わって汗を流し、経験を積まなければならないのです。頭で考えても前に進むことはできません。アイデアは現場にあります。知恵なきときは汗を流さなければならないということです。これからも現場で汗を流し続けたいと思います。よろしくお願ひいたします。

香川大学教育学部附属坂出小学校・幼稚園 校長 坂井 聡

異校種間交流

幼稚園 わくわく！小学校体験

2月13日（月）～15日（水）の3日間、年長児は小学校体験に行き、小学校での生活を体験したり小学生との交流を楽しんだりしました。授業の様子を見て「こんなに文字がいっぱいの本を読むんだね！小学生ってすごいなあ」と授業に興味をもったり、一緒に鬼ごっこをして小学生の走る速さに「あんなに速く走りたい！」と憧れの気持ちをもったりしました。入学が楽しみになった子供たちです。



小学校 4年生と幼稚園の交流

特別支援学校との交流で、相手に寄り添って話をする大切さを学んだ子供たちは、幼児にはどのように接すればよいか興味をもちました。附属幼稚園との交流の機会をいただき、一緒に遊ぶことを通して、思うように話ができなかったり、どのように関わっていいか迷ったりしていました。幼稚園の先生方が園児たちの目線で、分かりやすい言葉を使って話しかけている様子を見て、真似をしながら園児たちと距離を縮めることができました。



中学校 共創型探究学習CAN～小6参加～

10月14日（金）に、共創型探究学習CANのプレ発表会を行い、附属坂出小学校の6年生が見学に来ました。屋台形式の発表会ではなかったため、発表者とのやりとりはあまりできませんでしたが、真剣な表情で発表を聞いていました。次年度は中学1年生として共に探究活動を行います。



特別支援学校 楽しかった交流学習

小学部では、毎年、同じ地区の府中小学校の4年生と交流学習を行っています。今年度は、3年ぶりに対面で行いました。1回目は、本校の体育館で、本校の児童たちが作ったゲームをしました。2回目は、府中小学校の運動場で、鬼ごっこをしたりボール遊びをしたりしました。2回の交流を通して仲良くなり、互いに声を掛け合いながら楽しく遊ぶ姿を見ることができました。互いの良さを知る良い機会になりました。



<めざす子供の姿を大切に>

カルタ遊びを豊かに楽しむ

【年少児】

カルタ遊びが大好きな子供たち。「ぼくが読むね」と、読み札を持ちますが、ひらがなを読むことはまだ難しく、取り札の絵を見て「いちご、甘いよ」とか「おみそ汁、ねぎがいっぱい」など、読み札らしき言葉や文を作って読んでいます。絵札からイメージを膨らませ、ピッタリくる言葉を探そうと思考を巡らせているのです。また、絵札を一行に並べ始める子供たち。自分の名前を作ってみたり、並べた絵札の文字を保育者に「読んで」とリクエストし、言葉の響きを面白がったりしています。ひらがなや言葉への興味・関心が、何気ない遊びの中で育っているのを感じます。さらには、自分たちが下を向いて寝転び「先生、読んで」と言います。今度は、自分たちが絵札になっているようです。「一輪車の練習を頑張ってる〇〇ちゃん」などと呼ぶと、「はい！」と張り切って顔を上げます。自分の名前を呼んでほしくて、期待の眼差しで待っている姿も微笑ましいです。「カルタ遊び」と一口に言っても、様々な楽しみ方を見付けていく子供たち。子供は遊びの天才です。

好きな遊びを通して、思いを伝え合ったり認め合ったりしながら、じっくりと遊ぶ楽しさを充分味わえるよう、ゆったりとした時間や場所を保障していきたいです。



カルタ、たのしいね

探究の過程を楽しむ～冬のアサガオ～

【年中児】

6月から大切に育てているアサガオは、現在、温かい保育室の中でぬくぬくと過ごしています。実はこのアサガオは、9月に種とりをした際「今から植えよう！明日咲かなあ」と、子供たちが願いを込めて育てているのです。季節外れなこともあり、とても小さく細いつるでしたが「ゆっくり生長しよるなあ」と声を掛けながら毎日お世話をすると、10月下旬につぼみを付け、11月には見事開花！みんな大喜びでした。

その後も何度かつぼみを付けて、花を咲かせたアサガオですが、真冬になるとほとんど枯れ、今ではかなり弱々しい姿になっています。しかし、子供たちは、どうにかして冬越しができないかと、植木鉢に毛布を巻き付けたり絵本やインターネットで調べたりと諦めません。調べてみると、アサガオの開花には、11度以上の温度が必要であることが分かりました。最近、毎朝温度計を見て、11度を下回る日にはヒーターの前で温めるなど、友達と思いや考えを出し合って工夫する姿が多く見られます。果たして、子供たちの思いは冬のアサガオに届くでしょうか。これからも子供と共に探究の過程を楽しみたいと思います。



毛布でぬくぬく♪

自主・自律

共生・協働

探究・創造

難しいことへの挑戦から 見られるその人らしさ

【年長児】

冬休み明けからこま回しを楽しんでいます。年長になると鉄芯ごまになり、今までの手回しごまや糸引きごまのレベルから一気に難しくなります。子供たちの中には、こまが得意な人もいればそうでない人もいて、こまへ向かう気持ちは人それぞれです。

こまの得意な人は、自分の力を信じて、レベルアップしようと新しい技に挑戦していきます。逆さまに回すキノコ回しやトレの上で回し、そこから羽根つきの要領でこまを打ち合うことなど……自分なりに技を追究しています。また、その技を降園前のひとときに、みんなに紹介する時間を設けたり、異年齢でこまを通して関わり合える場所を設けたりすることで、自分の力を発揮するうれしさにもつながっています。

そんな友達の姿は、こまに気持ちが向いていなかった人にとっては大きな刺激となり『ちょっとやってみようかな』『自分にもできるかな』という気持ちを芽生えさせています。傍でじっと見ていたり少しだけ一緒に回してみたり……と少しずつこまへの興味や関心を高めていき、「ひもはどうやって巻くといいの？」「ひもは巻けるようになったけど、どうやって投げたらいいの？」と、だんだんと『自分も回せるようになりたい！』という気持ちを強くしています。得意な人は、自分の技を磨くだけではなく、こうした友達の思いに寄り添って「こうやってするといいよ」「一緒にやってみようよ」と声を掛け、友達ができるようになることを自分事のように喜ぶ姿も見られています。うまくいかないもどかしさも、こうした関わりの中で、友達と一緒に挑戦する喜びとして感じ、こま遊びを楽しんでいます。

一人一人のこまへの向き合い方は違いますが、その人なりの積み重ねを大切に、見守ったり一緒に挑戦したりしながら、難しいことにも挑戦しようとする心や諦めない心、できるようになる楽しさやうれしさ、自分の力（有能さ）に気付いていけるよう関わっていきたいと思います。



こまの羽根つき



よーし！一回勝負だ！

小5 総合的な学習の時間 「Love うどん！ Love 香川！」

5年生は、総合的な学習の時間で香川県の魅力について追究してきました。1学期には香川県の特産品について調べ、オリーブや手袋、小原紅早生などの様々な特産品について各自がまとめ、それらを交流することで、多くの特産品があることを明らかにすることができました。

2学期には、その中でも特に有名な讃岐うどんについて調べを進めていきました。材料や作り方を調べ、校外学習で実



校外学習でのうどん作り



5年生みんなでうどん作り

際作り方やコツを教してもらい、おいしいうどんを作ることができました。校外学習での体験を保護者にも伝えるために、附小フェスタでうどんを作って振る舞うことにしました。事前に自分たちで作って試食してみると「混ぜる塩水の量が多すぎて、うどんのタネがべちょべちょになった」や「切ったり伸ばしたりするときに、麺を太くしすぎてゆでも固いうどんになってしまった」などの反省が見られました。それらを改善し、粉と塩水の分量を調整したり、伸ばし方や切り方を工夫したりすることで、本番の附小フェスタでは、おいしいうどんを振る舞うことができました。食べてもらっている間に、自分で調べてきたうどんの歴史や材料、おいしく作るコツなどを紹介しました。

3学期はそれぞれで調べた香川県の特産品について広く発信するために資料の形にまとめました。



うどんについて説明

小6 総合的な学習の時間 「未来プロジェクト」

6年生は、総合的な学習の時間で、なりたい自分や将来就きたい職業について考えてきました。4月の修学旅行では、キッザニア甲子園に行き、いろいろな仕事の体験をしました。子供たちは、様々な仕事に触れ、仕事の楽しさや大変さに気付くことができました。



キッザニアでの体験



調べたこととの交流

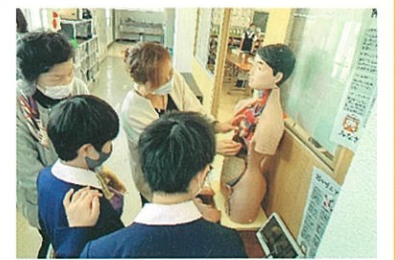
その後、就きたい職業や興味のある職業についてインターネットや本などを利用して調べていきました。子供たちは、「どのような仕事内容か」「その職業に就くために必要な資格は何か」「どんな適性をもつ人が向いているのか」といった問いをもって調べ、分かったことをプレゼンにまとめていきました。そして、東組・西組で調べたことを交流する中で、自分が調べていない視点に気づき、職業への関心をさらに高める姿が見られました。

2学期になると、1学期の学びを附小フェスタで生かそうと計画を立てていきました。まずグループを作り、発表内容や体験内容を考えました。また、楽しく発表を聞いてもらうにはどうすればよいか話し合っていました。さらに本番で自信をもって発表できるようにグループ同士で発表を見合ったり、坂出高校の生徒に見てもらいアドバイスをもらったりしました。

そして附小フェスタ当日、子供たちは練習の成果を生かし、他の学年や保護者の方に調べたことを堂々と伝える姿が見られました。また、楽しく職業の体験をしてもらえるように丁寧に対応をしたり、聞いてくれたことへの感謝の気持ちを伝えようと、景品を渡したりするなど、キッザニアでの体験を生かし、工夫を凝らすこともできていました。附小フェスタをやり遂げた子供たちは、「人に伝えるだけではなく、自分の将来についても考えられた」「みんなに仕事の楽しさを分かってもらえてとても良かった」「中学生に一步近づけたような気がするので、CANの活動につなげていきたい」などと振り返るなど、これまでの学びの達成感を感じたり、中学生という次のステージへの目標をもったりすることができました。



仕事内容の説明



臓器の組み立て体験

共創型探究学習CAN

CAN2022最優秀研究「青雲賞」
「ペットボトルロケット研究所3 ～どうしてペットボトルロケットはきれいな軌道で飛ばないのか～」が受賞

今年度で、13年目を迎えるCAN。コロナ禍における3度目のCANでしたが、3年ぶりに選抜クラスターによるステージ発表を行うことができました。投票によって、最優秀研究『青雲賞』が上記の通り決定しました。テーマの通り継続研究3年目で、現2、3年生は、1年生のときからこの研究に携わってきました。以下は、3年生（上写真中央）の言葉です。



「3年間のCANは自分にとって『何よりも高い山』でした。登っている時に霧がかかって前が見えなくなったり、頂上が見えずにくじけそうになったりしました。しかし、『山頂の無い山は無い』と信じて前に進み続けることで、無事山頂にたどり着くことができました。探究中は全体像が見えないこともあったけれど、今、山頂から自分が歩んできた足跡を眺めると確実に自分が成長できたと実感できます。今後出会うであろう次なる山でも歩みを止めないでいたいと思われました。」

【その他の主な表彰／「探究テーマ」】

- ◆ 校長特別賞 「なぜ植物の数を増やすだけでは環境が良くならないのか？」
- ◆ CAN賞 「家庭の食品ロスを減らすには？」
 「なぜ傘を差していても荷物が雨に濡れてしまうのか？」
 「もっとエコに暮らし隊 ～どうしたら効率良く再生栽培できるのか～」
- ◆ イグ青雲賞 「どうしてろ過装置を持つ人は少ないのだろう？」
- ◆ 部門賞 「Let's protect the earth! ～どうしてプラスチックが減らないのだろう～」(課題設定力賞)
 「鏡を曇らせないようにしよう! ～なぜ持続期間が伸びないのか～」(課題追究力賞)
 「なぜ全開に開けるよりも対角に開ける方が効率よく換気できると言われているのだろうか？」(課題表現力賞)
 「なぜ食品ロスが多いのか？」(チームマネジメント賞)

「わたし」が変わる「ものがたり」の学び

これまで本校では「自立した学習者の育成」をめざし、生涯にわたって学び続ける意欲やその基盤となる力の育成を中心に授業実践及びカリキュラム開発の研究を進めてきました。今期はより生徒が学びの主体となって、学ぶことの価値を実感できるような授業づくりに取り組んでいます。その実現を図るため、困難、葛藤、衝突、成功、驚きといった、頭だけでなく心も動かされるような学びの場と生徒の姿が生まれる授業をめざしています。



ALTの先生に説明するがなかなか伝わらない姿



協力しながらなんとか証明しようとしている姿

＜めざす子供の姿を大切に＞

自主・自律

共生・協働

探究・創造

日常生活での自立

集団生活での自立

社会生活での自立

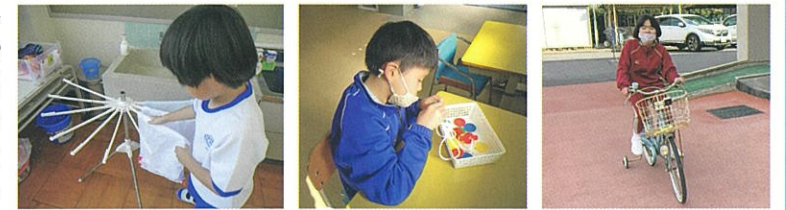
自立と支援

特別支援教育においては、自立と支援が反比例になっており、自立した部分が少ない段階では支援が多く、自立した部分が増えていけば支援が減少していきます。少しでも自分で選択することを増やし、また周りから認められ、自分らしく生きていくことが自立であり、幸せに生きるために大切だと考えます。

各学部で具体的目標を立てるとともに、学部間で連携しつつ個に応じた指導と支援をしています。

小学部

小学部では、水曜日以外の5時間目に、チャレンジ活動という学習を行っています。洗濯物を干したり掃除機をかけたりするなど家庭でのお手伝いにつながる活動や、牛乳パックをはさみで切り開いたりビーズ通しをしたりするなど手先を使う活動、自転車をこいだりトランポリンをしたりするなど余暇につながる活動に取り組んでいます。児童の実態や保護者のニーズを考慮して、個に応じた活動を設定しています。毎日のようにこつこつ行うことで、準備から片付けまで一人でできるようになりました。「一人でできた!」という経験を増やすことで、どんなことにもチャレンジできる人になってほしいと願っています。



お手伝い課題

手先の課題

余暇の課題

中学部

中学部では、毎年12月に「忘年会」を実施しています。忘年会では、昼食注文とデザート作りは1～3年生の縦割りでの集団、余興は学級集団というように活動ごとに集団の編成を変えています。集団のメンバーが変わることで、上級生は、上級生としてのリーダーシップや下級生への配慮を意識した行動が見られたり、下級生は、丁寧な言葉で話し掛けたり上級生との関わりを楽しんだりするなど、同級生と過ごすだけでは見られない様子がよく見られます。いつもと違った集団で活動することにより、集団での過ごし方や人間関係形成なども学びながら「集団生活での自立」に向けて取り組んでいます。



話合いの様子

高等部

高等部では「社会生活での自立」をめざして、職業教育を重視した教育課程を編成・実施しています。そして、日ごろの作業学習を中心とした授業を通して培ってきた働く力を試すとともに、卒業後の進路に備えて社会の職業現場で働く経験を重ねるために、現場実習を実施しています。1年生では「働くことの大切さを知る実習」として年1回、1週間の集団実習に取り組んでいます。2年生は「自分の力を試す実習」として年2回、2週間の集団実習に取り組んでいます。3年生は「進路を決める実習」として年2回、2週間と4週間の個別実習に取り組んでいます。どの生徒も現場実習を通して、大きな成長を見せてくれています。



高1

高2

高3

第103回 附属坂出小学校教育研究発表会

自ら伸び続ける子供の育成（2年次）

～ 個に応じて、「さ・ぬ・き力」を育てる環境づくり ～

令和5年1月27日（金）第103回教育研究発表会を開催しました。4年ぶりに参集型での研究会の開催となりました。コロナ禍のため、授業会場ごとの参会者数については制限を設けましたが、県内外から約700名の皆様をお迎えし、本校の提案授業を見ていただくとともに、多くのご意見をいただくことができました。

本校では、数値で測りにくい力である社交性・粘り強さなどの非認知能力に焦点を当て、その中でも子供が自ら伸び続けるために必要な力を「さ・ぬ・き力」とし、それらを育てるための研究を進めてきました。非認知能力は、予測困難な社会において、様々な問題に直面した際、課題を主体的に設定し、自力で、または他者と協働することを通して解決していくために、必要な能力であると考えています。

提案授業では、子供たちが自ら主体的に学び、話し合う姿を見せることができました。授業討議では、めざす子供の姿を基に、どのような場の設定や価値付けが有効であるかについて話し合い、多くの貴重なご意見をいただきました。

全体講演では文部科学省国際統括官付国際戦略企画官白井俊先生より、「OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来」と題してお話をいただきました。「変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（エージェンシー）」の大切さなどについてお話がありました。

参会者の先生方からいただいたご意見を基に研鑽に励み、よりよい授業づくりをしていきたいと思っております。また、今後も、地域のモデルとなるような実践を積み重ねるとともに、全国に発信していきたいと思っております。

研究会の様子



国語科



社会科



算数科



理科



音楽科



図画工作科



体育科



道徳科



全体講演

第65回 附属幼稚園研究発表会

保育を楽しむ保育者を目指して

～ 自分（たち）らしさを生かした保育の展開 ～

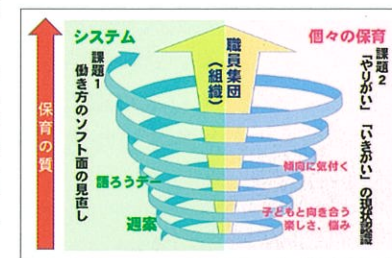
令和5年1月27日（金）に、第65回附属幼稚園研究発表会を行いました。今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、直接保育を見ていただくことはできませんでしたが、今回は人数制限を設けた上で公開保育を行うとともに、全体会と講演はオンラインでも公開しました。多くの参加者が、今回の研究主題と公開保育に関心をもたれての参加であり、各年齢分科会では和やかな雰囲気の中にも活発な協議が展開され、本園の職員にとっても学び多き研究発表会となりました。

さて、本研究は、現在の幼児教育界の最も大きな課題の一つである“働き方改革”に関連するものです。ただ、これは、単純に労働時間を短くすればよいという話ではありません。労働時間を短くしても、保育の質を落とすことがあってはならないからです。

保育の世界は直接的にせよ、間接的にせよ時間をかければかけるだけ成果を得られやすい場所です。それゆえ、本園でも、質の高い保育を目指して、前回よりもよりよい保育ができるようにと考えて、その準備、反省に時間をかけてきました。この時間は必要なものなのですが、この時間をより有効に、効率的に活用できれば、労働時間の制約があっても、その保育の質を落とすことはないだろうと考え、研究を進めてまいりました。

そのためには、保育者自身が保育を楽しむことができないといけないと思います。様々な制約のある中で、保育者が本来もっている「楽しく子供と関わりたい」という気持ちを引き出す環境を整えば、それは、働き方改革と保育の質の担保という一見相反することの両立も可能ではないかと考えたのです。そこで、本研究では、保育を楽しむことができるようにするために、4つの視点（「計画の見直し（教育課程、長期、短期の指導計画等）」、「環境の見直し（人的環境、物的環境等）」、「情報発信の見直し」、「事例検討による保育の見直し」）を掲げて実践的な研究を進めてきました。研究発表会では、右下図にあるように、システムの改善と個々の保育の向上は、相互に関係し合いながら改善されるものであり、トライアル・アンド・エラーの考えのもと、職員集団（組織）で取り組むことで園全体での保育の質の向上が図られるとして提案することができました。

午後からの洗足こども短期大学 教授 井上真理子先生の講演では、本園の取組について、「保育に専念できるための工夫が業務改善となっている」「文化として楽しい雰囲気がある上に、記録が対話を通して本質へと高まり、保育に生かされている」「経験の浅い保育者集団と聞いたが集団の強さがある」など価値付けていただくことができました。また、保育の質をもたらす「人材」と「組織」の関係は「掛け算である」と教えていただきました。



$$\text{人の能力・資質} \times \text{組織の質} = \text{パフォーマンス（保育の質）}$$

人の能力・資質が10でも、組織の質が1だと、保育の質は10×1=10

人の能力・資質が5でも、組織の質が10であれば、保育の質は5×10=50

他にも「人材育成をしていくことが大切だが、人の能力・資質が5から10になるには時間がかかる。その保障が必要」「人を生かすも殺すも組織次第」など、心に残る講話でした。今後も、一人一人の特性（よさ）が最大限に発揮されるような組織づくりに全職員で取り組んでいきたいと思っております。



洗足こども短期大学 教授 井上 真理子 先生



【3歳児】こま回し
～こまの面白さや不思議にふれて～



【4歳児】お相撲ごっこ
～大勢の友達の応援を受けて～



【5歳児】こまスタジアム
～難しいことへの挑戦を楽しむ～

心の支援部の取組

学校保健安全委員会

～ 経年的な保健教育を大切に ～

11月17日（木）に令和4年度後期の学校保健安全委員会を開催しました。学校保健安全委員会は、学校園における幼児・児童・生徒の健康課題を取り上げ、改善策について協議し、日々の健康づくりの推進を目的に開催しています。後期は中学校が中心となり、小中連携でオンラインにて開催しました。助産師・思春期保健相談士の鈴木佳奈子先生をお呼びし、性教育について協議しました。また、学校医の佐藤融司先生にもご参加いただき、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行についてお話をいただきました。

～ 家庭でできる性教育とは ～

SNSの普及等により子供たちを取り巻く環境が変化する中で、子供たちへの正しい性教育が求められています。しかし、「性教育」といっても、具体的に何を教えれば良いのでしょうか。学校保健安全委員会では子供たちの発達段階を理解し、それに合わせた性教育の内容と伝え方について学びました。また、新たな問題として注目されているデートDVなどについても知る事ができました。

子供を一人の人間として接し、子供の興味関心を否定せず正しい知識を与えることが重要です。そうすることで、性への歪んだ印象をもつことなく、世の中にあふれる性情報を正しく取捨選択できるようになります。また、こちらから性についての話をすることで、子供は性について困った時に相談できる場を得ることが出来ます。

～ 流行し続ける感染症と学校生活 ～

新型コロナウイルスが流行し始めて3年間、「変異株」「新しい生活様式」など、これまでの生活では聞きなみみのなかった情報が次から次へと出てきました。今回は新型コロナウイルスの基本的な仕組みから、ワクチンがどのような原理でできているのかという専門的な情報まで知ることができました。

新型コロナウイルスの流行以降初めて、インフルエンザが流行すると言われるこの冬を元気に乗り越えるために、初心に戻り基本的な感染症対策を一人一人が心がける必要があります。

< 保護者の方の感想 >

- 子供に「教える」のではなく「一緒に学ぶつもりで」という言葉を聞いて、気持ちが楽になりました。難しく考えすぎずに、子供とたくさん会話をし、お互いちょうどよい距離感を保ちながら、一緒に育っていきたいと思います。
- どの様に性について教えていけば良いのか分からず、構えてしまっていたのですが、子供が自分で学べるようにサポートすれば良いと分かり、少し「ホッ」としました。
- コロナのワクチンを打った方が良くは何となく思っているだけで、その仕組みや有効性について聞く機会はなかったので今回知ることができてよかったです。

思春期のわが子に性について伝えるには

- ✓ 親が「教える」というよりは、子どもが自分で学べるようにする
- ✓ 正しい情報のありかをそつ/さりげなく伝える
- ✓ 親も学んでおく
- ✓ 「嘘」は伝えない!
- ✓ 性はプライベートなこと、というマナーも伝える(親のプライベートについて伝える必要はない、相手のプライベートなことを聞くのは慎重に、そして答える権利は相手にある)
- ✓ わが子を信じる!



スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの先生も参加

鈴木先生の講話の一部

～様々な人が集まり関わり合う学園に～

幼稚園

ここ数年、コロナの影響で中止になっていた園内茶会を2月8日（水）に実施しました。

3人の先生をお迎えし、厳かな雰囲気の中、お茶会が始まりました。ゆっくりと丁寧にお茶を点てる先生の所作に、子供たちの目は釘付けです。

お点前後は、実際にお客さんとお茶を点てる役に分れました。お客さんにお菓子やお茶を運び、お互いに「どうぞ」「ありがとうございます」の気持ちを込めてお辞儀をすることを教えてもらいました。また、お茶を点てる時は「優しく“1”を書くように動かしてね」「最後は“の”の字を書くよ」など優しく教えてくださり、みんな上手にお茶を点てる事ができました。

さらに、お茶をいただく時には、お茶碗を2回手前に回し、飲み終えたら2回反対に回すと、元の柄が戻ってくることも教えていただくと、飲み終えたお茶碗の絵柄をじ〜っと見ている素直な子供たちの姿がとても微笑ましかったです。

年長児だけが卒園前に経験できる特別な時間。日本の文化や本物に触れ合う機会、厳かな雰囲気を存分に感じられ、とてもよい経験になりました。



小学校

小学校では、坂出高校（教育創造コース）との連携を行っています。年間5回、その時期の行事に合わせて授業参観や教育支援などを計画し、高校生が体験する場を設けています。

2月10日（金）には、1～4年生の各教室で支援活動を行いました。小学生が困っている問題について助言したり、リコーダーがきちんと演奏できているか確認したり、発表を聞いてよいところを伝えたりと、様々な教科について、その子のためになることを考え、進んで関わる坂高生の姿を見ることができました。

これまでの関わりを通して、小学校の子供たちの中にも、坂出高校のお兄さんやお姉さんが来てくれるのを楽しみにする気持ちが高まっています。昼休みには、たくさん笑顔の花が咲いていました。



中学校

1月30日（月）に、1年生・保護者を対象とした「あいサポーター研修会」を行いました。日常生活の中で、障がいのある人が困っているときにちょっとした手助けを行う人、「あいサポーター」になるための研修会です。講師に、谷田部秀男様をお招きし、様々な障がいの特性や障がいに応じたサポート方法を学んだ後、実際に車いす補助の体験をしました。



「あいサポート運動」とは…

平成21年11月に鳥取県で創設された運動で、多様な障がいのある方が困っていること、障がいのある方への必要な配慮などを理解し、日常生活においてちょっとした配慮や手助けを実践していく「あいサポーター」の活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域共生社会を皆で一緒につくっていく運動です。「あいサポート運動」は創設以来、多くの方々の賛同を得て、その輪が全国に広がっています。



特別支援学校

12月1日（木）に「あすチャレ！スクール」という出前授業を受けました。講師はシドニーパラリンピックで車いすバスケットボール日本代表キャプテンとして出場された根木慎志さんでした。根木さんによるデモンストレーションの後、生徒全員が競技用の車いすに乗ったり、代表生徒による車いすバスケットボールのゲームをしたりしました。根木さんは盛り上げ上手で生徒たちは開始早々から心をつかまれ、楽しく授業を受けることができました。そして授業を通して「応援」が力になることを教えていただきました。



松 韻 会

土曜メンテナンス

1月14日（土）に幼稚園にて、土曜メンテナンスが開催されました。今年度は70名以上もの方々に参加していただき、あいにくの雨ではありましたが、室内を中心に玄関や廊下のマット周辺の掃除を行いました。今年はお父さん方がたくさん来られて、力仕事もたくさん行ってくれました。その背中を見て子供たちも、自分の背より大きいほうきを持って一生懸命に掃除をする姿がとても愛らしく感じました。今後も、子供たちが安心・安全に園生活を送れるように親子で活動に参加していきたいと思えます。



おはなしママーず お楽しみ会

2月7日（火）、年に一度のお楽しみ会が行われました。おはなしママーずは保護者による絵本の読み聞かせボランティアグループで、月2回程度、子供たちに絵本や紙芝居を読んでいます。この日はパネルシアターや大型絵本の読み聞かせをし、150名程の子供たちが集まりました。鉛筆や手作りのプレゼントも配られとても楽しいお昼休みになりました。



坂出市PTAソフトボール大会（幼稚園・小学校・中学校）

12月11日（日）に坂出市PTAソフトボール大会が3年ぶりに開催され、附属坂出学園は幼・小・中から各1チームずつ参加しました。試合前の練習では、久しぶりに顔を合わす方、新たに参加していただいた方、先生方の力強いバッティングや堅実な守備、なによりも皆さんの笑顔を見ることができました。幼稚園と中学校は1勝1敗、小学校は2勝という結果でしたが、校種の枠を超えた保護者のつながりができました。また、中学校では附属坂出学園を長年にわたって支えてくれた今年卒業となる皆さんを胴上げし、大会を締めくくることができました。



親 和 会

2022年度はコロナの流行から3年目でまだまだ不透明な中、親和会としては少しずつ活動の幅を広げてきました。「できないとあきらめるより少しでもできること」を考えてきました。11月26日に行われた「ふれあい祭り」では、毎年恒例の本部役員主体の「お宝市」に加え、坂出のトラパーニさんに協力していただき行事部主体の「パン販売」を行いました。「ふれあい祭り」直前に予定していた代表者会が、小・中学部が学部閉鎖となってしまう実施することができず話し合いができませんでしたが、紙面で連絡調整等を行いました。

今年度の「お宝市」には、例年以上に良いお品をたくさん提供していただき、「お宝」の集まりでした。事前の準備では、本部役員のみならず素敵にラッピング、ディスプレイをして「お宝たち」をより素敵にきらめかせました。当日は、感染拡大防止対策を十分に講じながらも、賑やかにお客様をお迎えできたと思います。

また、「パン販売」については初めてのことであるにもかかわらず、上記の理由もあり事前に十分な話し合いの時間が取れませんでした。当日はたくさんの方に笑顔で購入していただくことができました。もちろん、反省点もたくさんありますが、やってみて良かったと思います。

「ふれあい祭り」には、子供たちもみんな元気に参加することができていました。親和会としても、新しい取組が行えたことはもちろん、コロナ禍でなかなか集まることができなかつたこともあり、行事を通じて保護者護者同士のつながりを改めて感じる事ができ、本当に良かったと思います。

編集後記

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響から多方面に制限がかかる中、子供たちの学びや育ちがストップしないよう検討を重ね、各校園の教育の在り方を工夫したり、異校種間交流や地域交流などにも少しずつ取り組んだりして参りました。そのような中、2023年5月8日からの5類感染症への引き下げについて歓迎と懸念の声がかかりますが、臨機応変に対応しながら、子供たちの笑顔と学び、附属坂出学園の充実と発展のために頑張っていきたいと思えます。

保護者をはじめ関係の皆様方、いつも温かいご支援とご協力をいただきましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願ひいたします。

発行年月日：2023年3月吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園